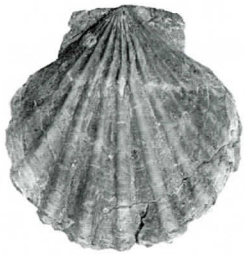
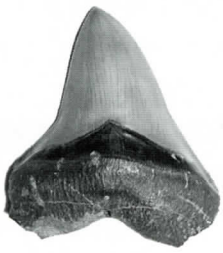
なり、海の浸入（海進）から海の消滅（海退）のドラマが刻まれています。

この地層からは、パレオパラドキシアをはじめ海生脊椎動物類、貝類、甲殻類などさまざまな化石が産出し、当時の海の様子を語っています。



ハヤシホタテ



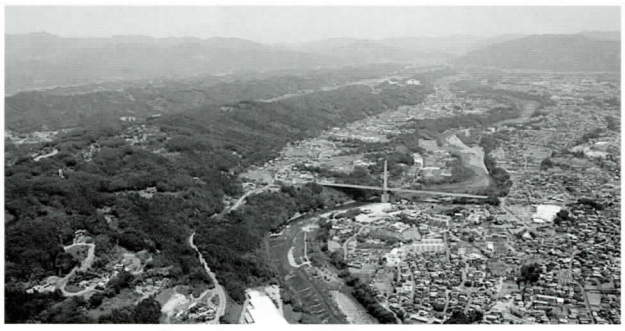
カルカロドン メガロドン

河岸段丘形成の時代　－河川が刻んだ大地－

（約50万年前～現在）

最も新しい地質時代を第四紀といいます。この時代は約260万年前から現在までの時代で、とくに後半は氷期と間氷期が繰り返し訪れました。

秩父では、約50万年前以降に荒川とその支流により、上位・中位・低位の河岸段丘が刻まれました。最も高い段丘は、秩父市と小鹿野町の間にある「長尾根」または「尾田蒔丘陵」とよばれる平坦面です。ここでは約50万年前～40万年前の堆積物がみられます。大部分は荒川の運んだ砂礫で、その上に厚い火山灰層が堆積しています。中位段丘の羊山丘陵は、約14万年前～9万年前に形成された段丘です。シバザクラで知られる公園は、丘陵の緩やかな地形を利用し、春の秩父を彩っています。低位段丘は、さらに数段の段丘に分けられ、秩父地方の最も広い生活基盤となっています。



秩父市上空から北東方向を見た盆地

博物館のあゆみ

当館の歴史は今から90年ほどさかのぼります。それは、日本の近代地質学がめばえ、秩父長瀞が研究の檜舞台であった時期です。その当時、地元の秩父鉄道は、長瀞から秩父まで敷設され、地元

大正10年設立　秩父鉱物標本陳列所

の産業の発展に貢献していました。この会社は、地元の沿線の文化の振興にも関心を寄せ、当時の地質学者らの協力により、「秩父鉱物標本陳列所」を開設しました。しかし、陳列所は昭和の混乱期に荒廃し、それを見かねた藤本治義（東京文理科大学教授）の働きかけにより、戦後間もない昭和24年に「秩父自然科学博物館」として同社により新設されました。同館は昭和56年、埼玉県立自然史博物館へと移管されるまで、約30年間親しまれてきました。

このように博物館は、数多くの研究者や支援・協力者により設置され発展してきました。ぜひ、この機会に当時の貴重な資料にふれ、もう一度先人たちの博物館によせる情熱を思い浮かべていただくことを願ってやみません。秩父鉱物標本陳列所時代、秩父自然科学博物館時代、埼玉県立自然史博物館の時代に分けて、写真や出版物など記録の品々を紹介します。

秩父の地質のみどころ

秩父地域内でみられる地質現象や自然景観、天然記念物などを写真により紹介します。

旧博物館と地質見学の思い出写真

今回の企画では、応募により多くの皆さんから、たくさんの貴重な写真を寄せていただきました。応募いただいた写真は、一挙に展示公開します。

また、これらの写真は、博物館の二次資料として保管し活用します。お楽しみに！

大地のめぐみ

「秩父」にゆかりのある岩石や鉱物、名水など、私たちの生活を潤してきた大地からの恩恵を紹介します。

（さかもと　おさむ・専門員兼学芸員
ほんま　たけし・専門員兼学芸員
すぎうち　ゆか・学芸員）